



一般企業向け DX推進AI研修

～生産性向上と業務品質の向上を目指して～

ビジネスファシリテーション・サービス

今回のテーマ

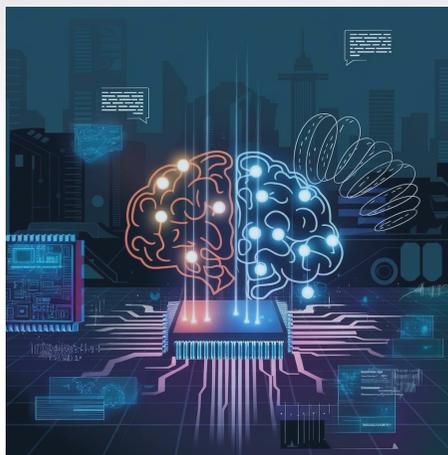
- 第1回：業務におけるDX化の基本と生成AIプロンプトの作り方、データ入力支援
- 第2回：検索AIの活用（情報収集と分析）
- 第3回：文書作成・ビジュアル表現
- 第4回：プレゼン資料作成
- 第5回：カスタムGPT活用
- 第6回：情報管理とDX計画、これからのAIについて



アクションプランの確認(省略)

- ルーフショット
- ムーンショット
- 気づきと学びのシェア
 - お一人2分程度
 - 1) ルーフとムーンの進捗率
 - ご自身の感覚でOK。一言で簡潔に。
 - 2) やってみて気づいたこと、学んだこと：重要
 - 達成できた、できなかったより、「できた」「できなかった」ことから「何に気づき、そこから何を学んだか」
 - 例) 「毎回〇〇だなあ…つまり？」
 - 例) 「今回は〇〇だった。ということは？」





DX推進AI研修 第6回

カスタムGPT活用

日時：2025年8月日 13時～16時

場所：大阪本社（対面）、東京営業所（オンライン）

本日のプログラム

※ 休憩は途中で10分程度
取ります

- オープニング
 - 本日のプログラム
 - アクションプランの確認 (省略)
- 1. LT (発表会)
- 2. 文字起こしからの分析実演
 - Zoom活用
 - AiNote活用
- 3. 総括 (短く)
 - 守破離
 - 個人→チーム→より組織へ
 - 社内発表に向けての今回の情報の使い方
- 4. DX推進AIの今後
 - APIについて
 - さまざまな生成AI技術、ツール
 - 生成AIの5段階、8段階
 - 生成AIのチーム内、組織内での新たな役割
 - キリンAI役員
- クロージング

※ 一部スライドに修正がある
場合があります



1. LT

- 進め方
- フィードバックについて
- ファシリテーター



3. 総括(短く)

- 守破離
- 視座・視野・視点 (次スライド)
 - 個人→チーム→より組織へ
- 社内発表に向けての今回の情報の使い
- 復習



視座・視野・視点で、発想を広げよう、まとめよう

難易度：★★

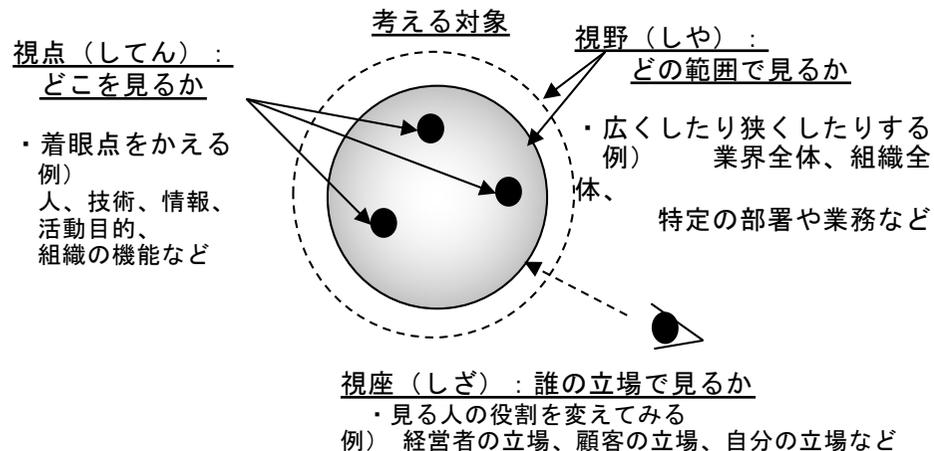
時間：制限無し

こんな時に使える

ブレインストーミングをしても、メンバーが日常の思考の範囲を超えられず、発想が広がらない場合があります。そんな時、ファシリテーターはメンバーの発想を広げさせるような投げかけをしたいものです。逆に、発想が広がりすぎて、収束がむづかしい時もありますね。このツールはそのようなときに活用できます。

やり方

視座・視野・視点という考え方をメンバーに投げて、発想を広げさせたり、まとめさせたりする



ヒント

視座・視野・視点ということばではわかりにくいときには、質問をしてみよう。例) 「他にはどんな立場がありますか?」「他の立場の人はどう思っているのでしょうか?」「みなさんの立場に名前をつけるとどうなりますか?」「今重要なことは品質ですかスケジュールですか?」

例

「この計画書ではダメだ。一から見直せ」と部長から言われた。しかしこの開発計画書は、チームでもう3回も見直したものだ。何をどう直したらよいか、部長が何を考えているのかが、チームにはまったくわからない。全員頭を抱えてしまった。「視座・視野・視点でもう一度抜けていることがないかどうか考えてみよう」。メンバーの提案で洗い直してみた。

最初に考えていたこと

<視座>

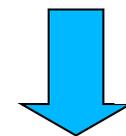
- ・ 開発チーム (自分達)
- ・ 企画部 (要求元)
- ・ A社 (顧客)

<視野>

- ・ 開発の最初から最後まで
- ・ A社と自社

<視点>

- ・ 納期
- ・ 技術スペック (考えていなかった)



視座・視野・視点で考え直してみると・・・

抜けていたこと

<視座>

- ・ 開発部 (部長)
- ・ 会社
- ・ 運用チーム

<視野>

- ・ 会社の中期計画
- ・ B社 (A社の競合)
- ・ C社 (自社の競合)

<視点>

- ・ 運用コスト
- ・ 汎用性

自分達の考え方がいかに狭かったかに気づいたチームは、抜け漏れていた事柄についても十分に検討し、計画書を作り直した。その計画書は、必要なことは検討しつくされ、不要なものはそぎ落とされていた。

再掲：「ChatGPTの業務活用効果」に関する調査

米国の経営大学院ハーバード・ビジネス・スクール（HBS）や米ボストン・コンサルティング・グループ（BCG）などとの共同調査

– <https://gendai.media/articles/-/123074?imp=0>

- BCGコンサルタントを2つのグループに分け、異なる種類の仕事（ChatGPT「GPT-4」）を割り当て

- A.「創造的な仕事（creative job）」（385人）
- B.「分析的な仕事（analytical job）」（373人）

注意：GPT-4のみでの調査

✓ 1つの見方として

創造的な仕事
✓ クオリティ
✓ スピード



分析的な仕事
✓ クオリティ
✓ スピード



比較的業務経験の浅い頭脳労働者の方が、より大きなプラス効果を発揮

分析的な業務にはChatGPTなど生成AIはマイナスに作用することが判明



(続き)

- うっかりこれに**依存する癖**がついてしまえば、**頭脳労働者の創造性など知的能力を減退させる恐れ**もある
- 一方、今回の調査に協力したBCGのような企業側の立場からは、ChatGPTのような生成AIは「**組織的・技術的な投資を最小限に抑えて、頭脳労働者の生産性や仕事のクオリティを高める上で極めて効果的なツール**」と見ることができる。
- 生成AIの**得意領域**と**不得意領域**を**正確に見極める**ことが、これからの企業にとって重要な課題
- **両者の境界線**はOpenAIやマイクロソフト、グーグルなど「生成AIの開発企業」が予め指定できるものではなく、むしろ**生成AIを導入する「ユーザー企業」側が半ば経験的に判定・識別**していくしかない

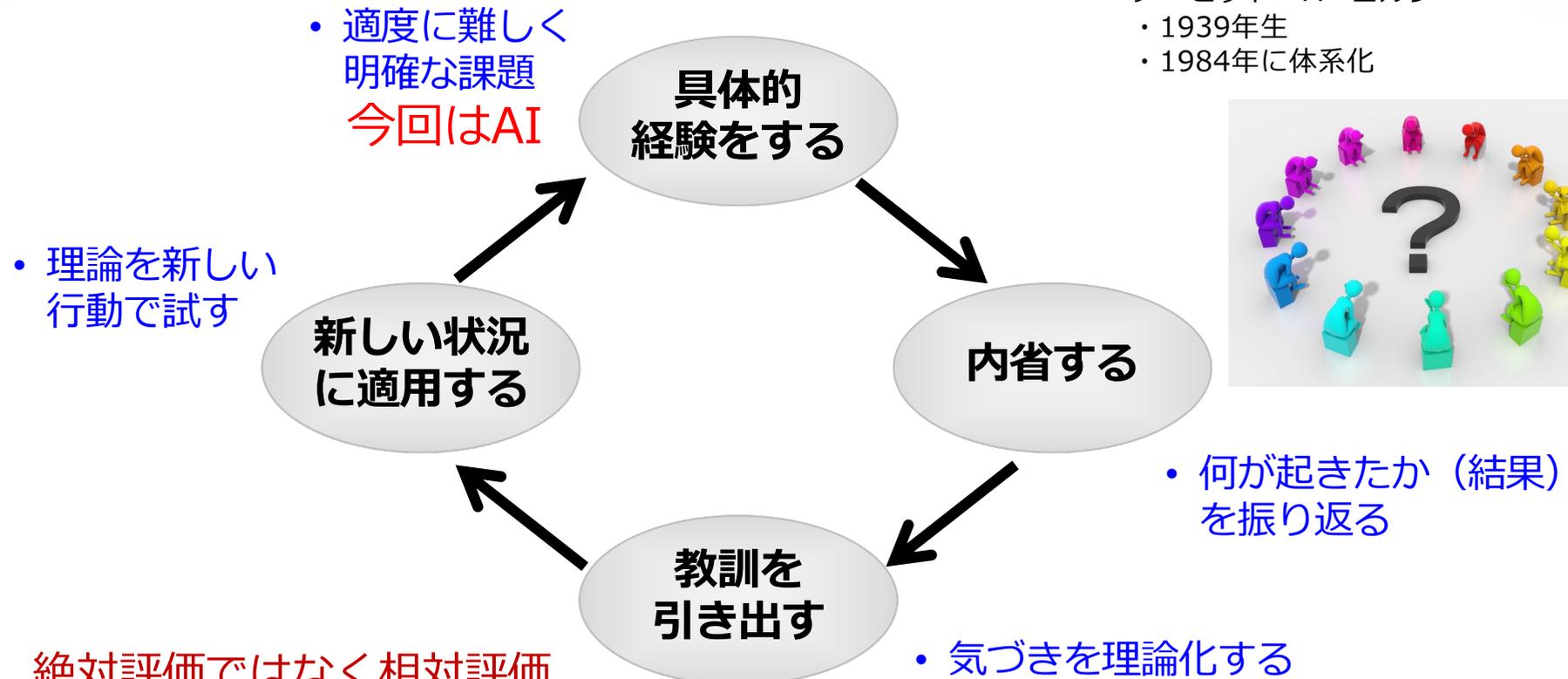


再掲：本研修の特徴《経験学習》

✓ 経験から学ぶ：コルブの経験学習理論 (Theory)

デービッド・A・コルブ

- ・1939年生
- ・1984年に体系化



絶対評価ではなく相対評価
(過去の自分と今の自分)

〔同じ経験をしてても成長の
度合いが人によって違う〕

なぜ？



「経験から学ぶ」
力の違い！



再掲：生成AIの激しい進化の中で・・・

- AI技術の進化に惑わされない
- 「何をいつ、どこで、どう使うのか？」をある程度自分（自分たち）で議論・判断できるようにする



- 何から最新情報を得るのか？
 - YouTube：UP時期の新しいもの、ダウンロード実績、ビジネス実績など
- 誰から、どう最新情報を入手するのか？
 - 偏った情報を持っている人とそうでない人の見極め
 - AI技術に偏っている、特定のツールに偏っているなど



再掲: クリティカル思考

- Critical Thinkingの推進
 - 物事を疑い、さまざまな視点から検証するCritical Thinkingは、AIの活用が進む中で、ますます重要になる。
 - 浅い考察や狭い視野に陥ることなく、広い視野で考えを深める姿勢を育てていきたい。
- 自分が自分の思考にクリティカルに考える
- AIの回答に対してクリティカルに考える
- AIにクリティカルに思考してもらおう
 - ユーザ（自分）に対して
 - AIがAI自身に対して
- 社内への浸透
 - これらの考え方を、社内の文化として根付かせていくことが重要。
 - 全員がこれを理解し、日々の業務に取り入れることで、AIの活用と人間の力のバランスが取れた組織作りが可能になるのではないか。



再考：組織内の4つのAIスキル

- AIテクニカルスキル（個人）
 - 上限がない、キリがない
 - 誰からでも、どこからでも学べる
- AI業務適用スキル（個人）
 - あなたのプロフェッショナル性が不可欠
- AIベーススキル（個人）
 - 自分自身の内面と深く向き合う必要がある
 - コミュニケーション力、思考力と同等のスキル
 - 生まれ持った資質だけではなく、学習すれば成長する
 - クリティカル思考
- AI組織内共有スキル（チーム・組織）
 - 仲間（チーム）がいる
 - 同僚や部下からより多くのことを学ぶ（上司や講師からだけではない）
 - 組織変革、ビジネスモデルの変革、新規事業の可能性を伴う

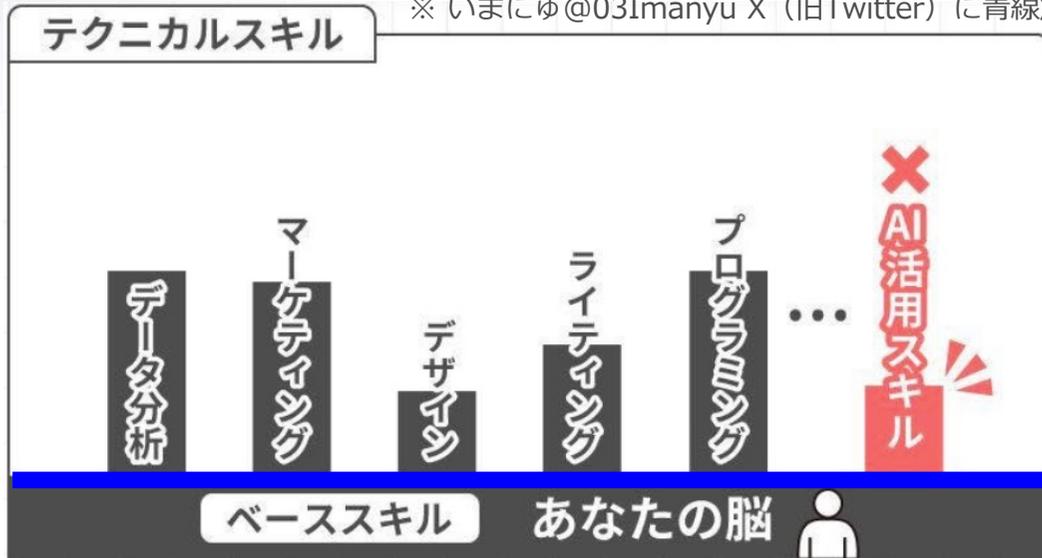
再掲：研修全体の目的

- AIテクニカルスキルの習得
 - ChatGPTを中心とした各種生成AIの具体的な操作方法や、業務プロセスへの活用ノウハウを、学び、考える
- AIベーススキルの習得
 - AIとの対話や思考プロセスを身につけ、業務改善や新しい発想につなげる土台を整える
- 業務効率化と顧客満足度の向上
- AI全盛時代への準備
 - これからのAI全盛時代に向けて、AIの本質的な活用方法を経験を通じて学んでいただく
 - "AIをブラックボックスにしない"ことが重要
 - AIに使われるのではなく、AIと共に歩む組織と人財の在り方を共に考えましょう



再掲: AIのテクニカルスキルとベーススキル

※ いまにゅ@03Imanyu X (旧Twitter) に青線加筆



今までの考え方

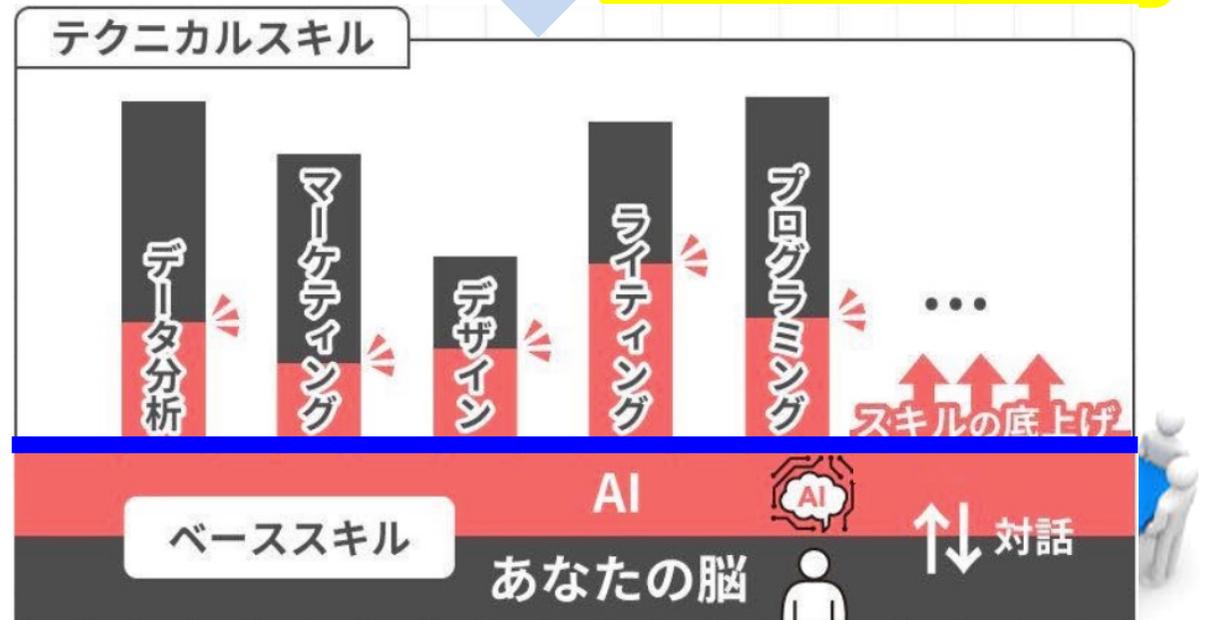
AIはベーススキル

今の子供達はAI対話が当たり前になってくる中、今の大人たちはこの状況をどう受け入れ、順応していくのか？

- できるか、できないか、
ではなく、やるかやらないか

これからの考え方

AIを通じて自分の内面と対話するイメージ
=セルフコーチング、
セルフメンター



再掲:『人とAIの共創』における心得

- 手間は省いても、**思考は省かない**
 - 生成AIを活用する際、単純なタスクの効率化や時間の節約（手間の省略）を図る一方で、創造的な思考や戦略的な意思決定（思考の省略なし）には人間の深い洞察が必要
- そして、**より深く、より広く**
 - AIのポテンシャルを最大限に活用し、広い視野と深い理解を持ってアプローチするべき
- 決して、**浅く、狭く、しないこと**
 - 表面的な理解や狭い視点に陥らないよう注意

このフレーズは、AIによって得られた知見や効率化を通じて、人間同士の協力と共創をさらに強化し、豊かにするための橋渡しを意図しています。AIの活用によって拡張された能力は、人間の創造性や共感性を最大限に発揮する土壌を提供し、より深い人間関係の構築と、社会全体の進歩に寄与することを示唆しています。“人と人の共創”は、テクノロジーを超えた最終的な価値の実現を目指し、人間性を重視した未来の形成を強調しています。（By ChatGPT）

DX推進AIの今後

- 生成AIの5段階・8段階
- APIについて
- さまざまな生成AI技術、ツール
- 生成AIのチーム内、組織内での新たな役割
 - キリンAI役員
- 社内AIシステムのイメージ図



SoftBank World 2024より

孫 正義氏 特別講演
『超知性が10年以内に実現する』



AIの進化



- 5 組織全体の仕事を遂行
- 4 イノベーションを創出
- 3 ユーザーに代わって行動 (エージェント)
- 2 博士レベルの問題解決力
- 1 人間との自然な会話 (チャットボット)

SoftBank
World
2024



AIの進化



- 8 調和の取れた超知性へと進化
- 7 自らの意思を持つ
- 6 感情を理解し長期記憶を持つ
- 5 組織全体の仕事を遂行
- 4 イノベーションを創出
- 3 ユーザーに代わって行動 (エージェント)
- 2 博士レベルの問題解決力
- 1 人間との自然な会話 (チャットボット)

SoftBank
World
2024



自己意識 (PA)



個性



思いやり



倫理観



達成感

PA : パーソナル・アウェアネス (Personal Awareness)

ASI

一万倍の超知能が
超知性へ進化

59



SoftBank World 2024

孫正義 特別講演

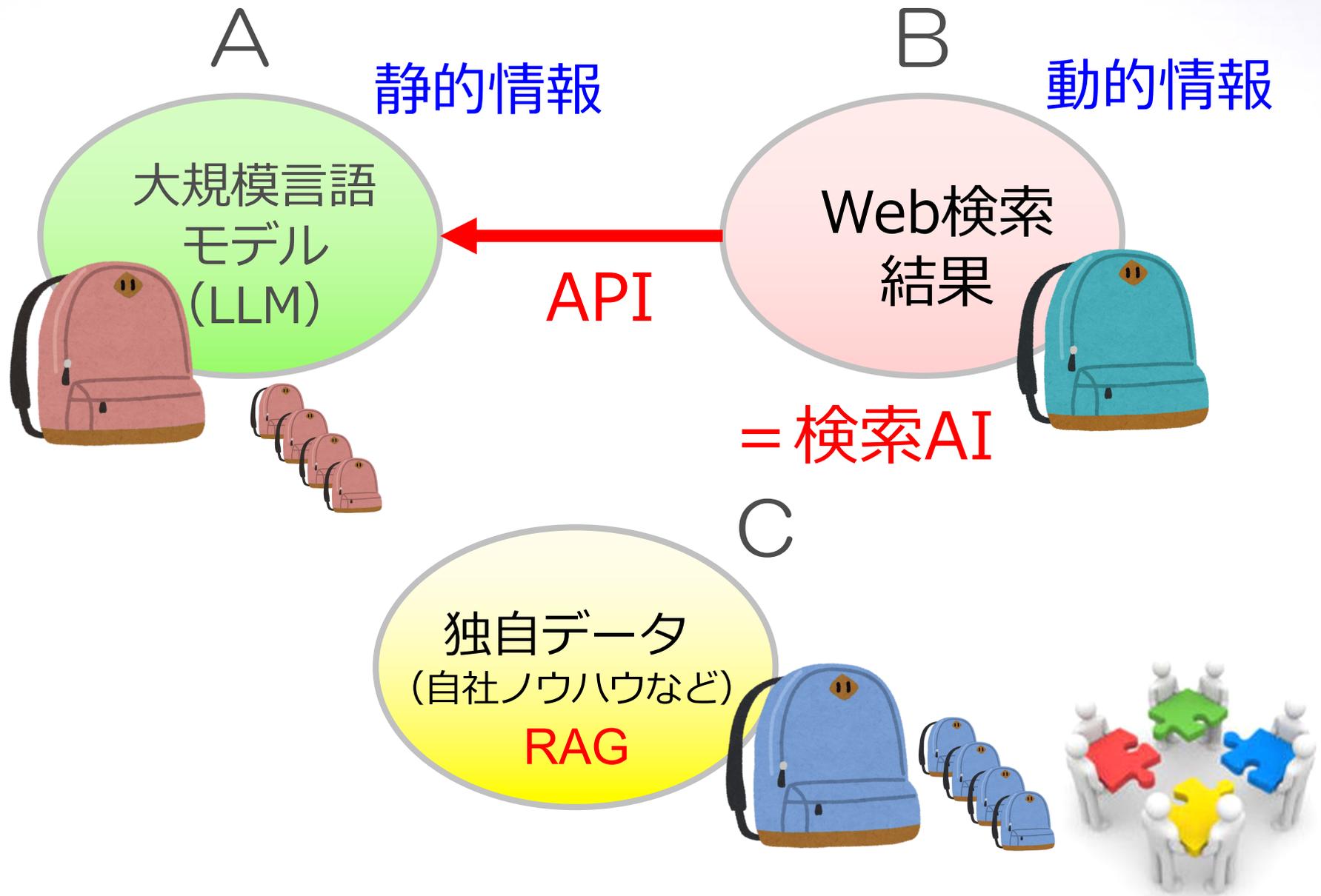
『超知性が10年以内に実現する』



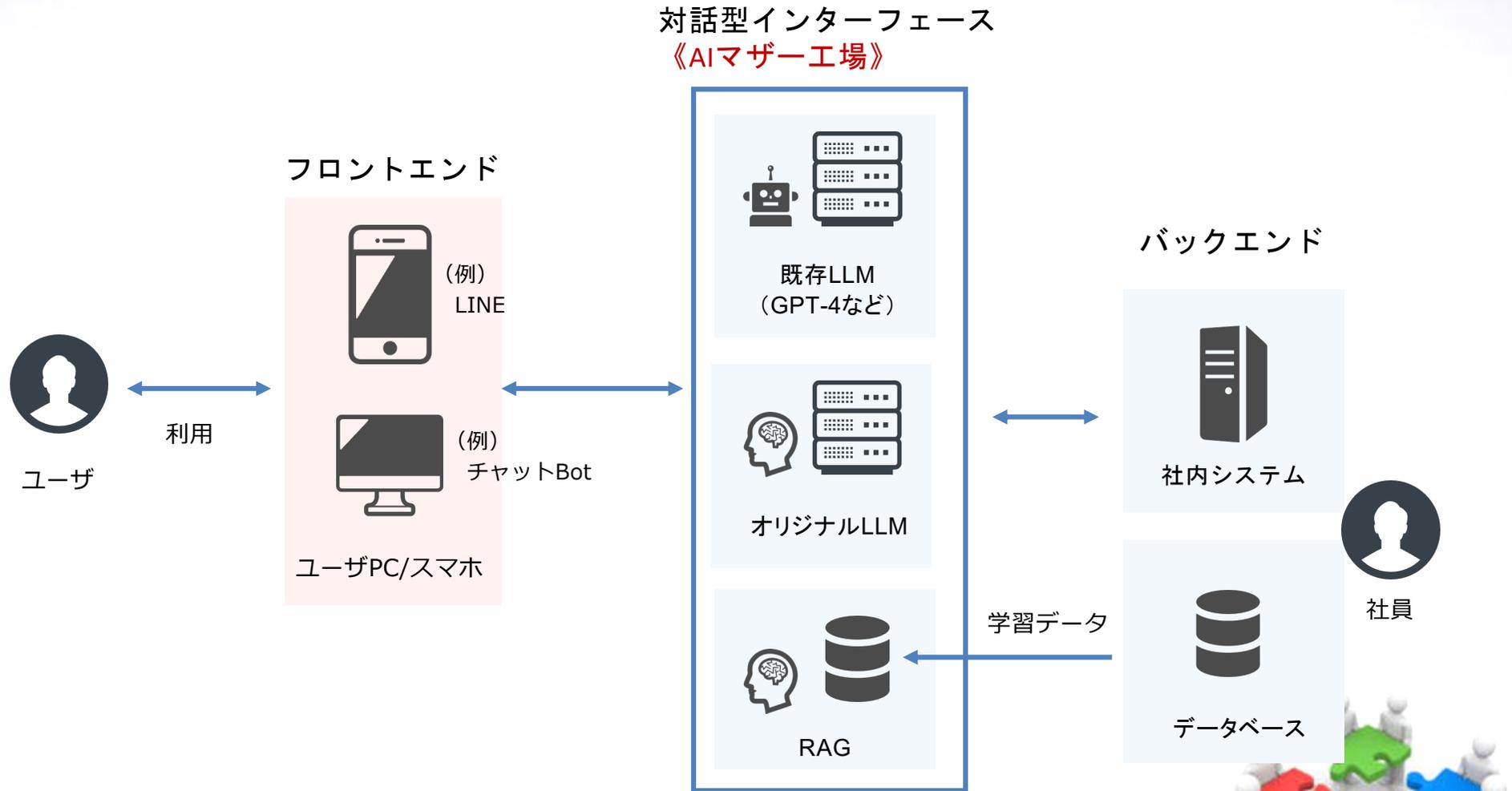
49



生成AIの3つの元情報



社内AIシステムのイメージ図



AIレベル × 主要ツール到達度 (%・2025/08/17版)

段階(1-8)	レベル名	ChatGPT (CustomGPT・ APIなし)	ChatGPT (CustomGPT + Actions/API)	Claude	Gemini (Workspace 連携)	Cursor	Notion (+ Notion AI)	Zapier	n8n	Dify	MCP (ツール 接続規格)	Genspark
8	超知性 (Super Wisdom)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	自律意思+人類の幸 福志向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	感情理解+長期記憶	20	20	15	12	8	12	0	0	8	5	5
5	組織 (AIの組織化)	8	20	12	18	8	12	28	35	25	40	5
4	発明/イノベーション	25	38	40	32	55	22	12	18	28	32	22
3	エージェント (自律 実行)	15	75	55	55	45	45	85	85	80	88	22
2	推論 (博士レベル相 当)	78	80	82	70	60	52	30	35	66	35	45
1	会話 (Conversational)	97	97	94	90	68	78	35	35	72	25	58



クロージング

「知の探索」と「知の深化」

- 知の探索 (Exploration)

- 新しい知識の獲得、新技術の開発、未踏の市場への進出といった、**新しい機会の追求**を指す
- **高いリスクと不確実性**を伴うが、**大きな報酬**をもたらす可能性もある
- 探索活動は、**革新的イノベーションを生み出す基盤**となる

- 知の深化 (Exploitation)

- **既知の領域内**での効率化、改良、洗練を目指すプロセス
- 製品の品質向上、生産プロセスの効率化、コスト削減などが含まれる
- 深化活動は、**漸進的な改善や既存の事業基盤の強化に寄与**する

【ジェームス・G・マーチによる1991年の論文】

組織学習とイノベーションに関する研究の中で、**組織が長期的な成功を達成するためには、探索と深化の間で適切なバランスを見つける必要がある**と指摘。組織が直面するトレードオフの管理、リソースの割り当て、長期戦略の計画における重要な枠組みとして受け入れられている。組織が**新しいイノベーションの機会をどのように探求し、同時に既存の事業をいかに効率的に運営し続けるか**という、経営戦略の核心的な課題を体現している。

- 『世界標準の経営理論』入山 章栄著 2019年12月 14万部
- 『両利きの組織をつくる－大企業病を打破する「攻めと守りの経営」』加藤雅則 2020年3月 AGC (旧旭硝子) の実例
- 『両利きの経営 (増補改訂版) －「二兎を追う」戦略が未来を切り拓く』2022年6月

「生成AIを気持ちよく活用するための法的注意点」

- 生成AIビジネスAIリテラシー検定（無料）
 - <https://license.hp.peraichi.com/>
 - 100点満点中75点合格（まあまあ難しい）
 - 画像生成AIリテラシー検定もあります
- 「データ利用拒否設定」は必須だが、それでも解釈によっては問題になる可能性はゼロではない。
 - プロンプトへの入力情報自体が外に漏れなくても、それ以外の様々な規約違反の可能性は残る
 - このリスクはAIに限ったことではない
 - データ処理契約 (Data Processing Agreement)
 - 概要: DPAは、データ管理者とデータ処理者の間で締結される法的契約です。個人データの取り扱いに関する権利や義務を定め、データ保護法（例: GDPR）に基づいて安全なデータ処理を保証します。
- 業務でAIを利用する場合は、プロンプトや記録（ログ）は残しておく

※ 加茂翔太郎先生（百村綜合法律事務所）解説より抜粋



アクションプランの策定

- 次週までのアクションプラン
 - ルーフショット（100%実行できること）
 - ムーンショット（120%のストレッチな目標）
- YouTube動画の紹介
 - 後日
- 次回冒頭で互いの成果を共有
- 事後アンケートに回答
 - この後1時間～明日の午前中を目処にお送りいたします。





以上で第6回は終了です。
お疲れ様でした。

事後アンケートにご回答ください